



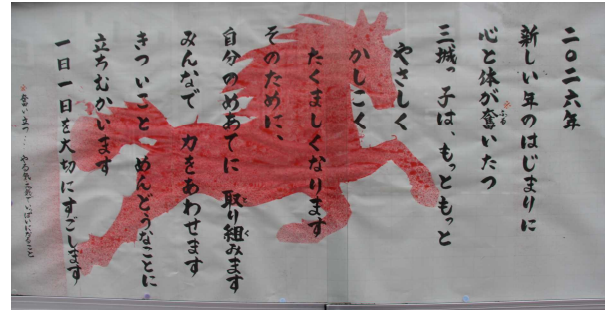
# 三城ものがたり

やさしく かしこく たくましく

令和8年1月14日  
大村市立三城小学校  
発行 石司 貴弘

## 2026年 おけまして おめでとうございませ 保護者のみな様とともに 大切な宝(子供たち)を守り、育てます

穏やかな天気にも恵まれ、新しい年が明けました。冬休みの間に、子供たちやご家族の皆様に関わる事故や病気の連絡が入ることがなく、ほっとしているところです。子供たちがしっかりと安全な生活のためのルールを守れたこと、ご家族の皆様と休み中の生活を整えたことの成果だと感じています。ご家族のサポートや地域のみな様方に見守りに、あらためて感謝の思いを抱いております。2026年が、子供たち、そしてご家族・地域の皆様方にとって素晴らしい年になるよう、共に心を重ねてまいりましょう。どうぞよろしくお願いいたします。



### ☆第3学期始業式

冷たい体育館の床に背筋を伸ばして座る凛とした姿に、それぞれの胸にある新しい年への決意が見えるようです。心と体を整えて、はじまりの式を迎えることができました。

校長は、「もっとやさしく、かしこく、たくましい三城っ子になるために、自分がめざすもの・こと(めあて)を決めましょう。めあてを達成するために、**続けること**(努力すること)を決めましょ

う。」とメッセージを送りました。続いて、代表の子供たちがそれぞれに決意を述べました。

☆3年1組:岸奏沙さん…漢字の自主学習と大きな数の割り算の復習を続けたい。

☆3年2組:宮崎かなびさん…並んでいないスリッパを進んで整え、学校をきれいにしたい。

☆5年3組:池田早紀さん…放送委員会のアナウンスについて、練習を重ねてうまくなりしたい。

☆5年3組:山口翔瑠さん…時計を見て1分前着席をし、心を落ち着かせて授業に臨みたい。

(主なものを抜粋)

「何を、どのように、がんばっていくのか、を自分の言葉で語りました。目標があると、具体的に何をするのかという「行動」がはっきりしますね。四人が全校児童にそのお手本を示しました。

さて、ここでの大人の役割は、子供が自分で決めた目標を達成することができるよう、側面からサポートすることだと思います。達成するための①**励まし**や、取り組んでいることへの②**称讚**など肯定的なかかわりを続けていくことです。このようなかかわりをするためには、目標を立てさせるだけでなく、その後の取組の様子をしっかりと**見届ける**ことが必要です。学年のまとめに向けて、学校職員もご家族の皆様も、共に子供の頑張り・よいところををたくさん見つけられると素敵ですね。

充実した3学期になるよう、子供と家庭と学校と、一つになって取り組んでまいりましょう。

## “むごい教育” ～ 今川義元と徳川家康 ～

子育てを語るときにしばしば登場する逸話であり、多くの皆様もご存知のことでしょう。

今川義元…駿河の国の大名。徳川家康の父親は、有力な大名である今川との争いを避けるために、我が子 竹千代(後の家康) を今川家に人質として差し出す。

竹千代の様子をひと目見た今川義元は、その小さな体の奥底に秘められた限りない才能を見抜く。「このまま成長すると、いずれ優れた武将になることは間違いない。隣国の大名である自分の身が危うくなってしまう。出てくる芽は摘んでおかねば。」と、危機感を覚える。

そこで今川は家臣に、「竹千代には、**“むごい教育”**を施せ」と命ずる。命令を受けた家臣は、竹千代を夜明け前に起こし、粗末な食事を与え、長時間の剣術、武術、馬術の鍛錬をさせる。夜は歴史や兵法、政治などの学問をくたくたになるまでやらせた。

しばらくして今川は家臣に、どのような教育をしているのか尋ねる。家臣が、自分たちが行っている教育を伝えると、今川は怒り狂い、家臣を叱りつける。そして、こう告げる。

「よいか、朝は起こさず昼までも寝かせておけ。剣術、馬術などの稽古はさせるな。

学問はやらせるな。寒い時には部屋を暖かく、着物も多く与えよ。

夏は涼しくしてやれ。贅沢な食事を好きなだけ食べせろ。嫌がることはさせるな。

好きなこと、したいと言うことだけを好きなだけやらせろ。」

そして、最後にこうつぶやく。

「**そうしていれば、たいていの人間は だめ になる。**」

※以下は、全国的なデータから見て取れる傾向です

「算数はしたくない」「体育の○○は苦手だからしたくない」「好きな○○だけならやる」

「学級みんなとうまくいかないから、教室にいたくない」「この係はきついからいや」

「自分の思いをわかってもらえないから、誰とも話したくない」

最近の傾向として、上のような小・中学生が増えつつある…と感じます。**“個性の尊重”**という、聞こえのよい言葉をたてに、「子供が嫌なら学習に参加させなくてもよい」とか、「無理強いしてまで嫌なこと、したくないことをさせる必要はない」との声を耳にします。

本当にそうでしょうか。個別に配慮すべき事があるのは当然ですが、決めつけは危険です。

学習には適度な抵抗感、乗り越えさせるべき適度な高さ・厚さの壁があるべきと考えます。したくないこと、苦手なことに挑戦させないこと、達成する喜びを味わわせないことの方が子供の一生に**“むごい影響”**を及ぼすような気がしてなりません。

☆おもしろくない・したくない → 教師や友達とともに挑戦して、面白さを発見させる

☆人との関係がうまくいかない → 共に話し、活動することで関係を築く体験をさせる

**苦手なんだけど、あんまり好きではないんだけど、自分なりの方法でチャレンジする!**

学校職員は日々、こうなるようにかかわりを続けています。**“避けて通る”**のではなく、**“乗り越え方”**を考える、機会をつくろうと努力をしています。ご理解をいただければ幸いです。